

## はじめに

平成 21 年「愛媛県感染症発生動向調査事業」を報告申し上げます。

平素、当事業へのご支援、ご協力に感謝申し上げますとともに、ご一読の上、ご助言、ご教示賜りますよう、お願い申し上げます。

本県における新型インフルエンザ(A/H1N1)流行期（2009 年第 30 週～2010 年第 13 週）定点当たり累積患者報告数は、412 人/シーズンで大規模な流行となりました。患者は乳児から高齢者まで幅広い年齢層に渡りましたが、14 歳以下の小児が全体の 80.8%を占めました。病原体定点医療機関からの検体で検出されたウイルス型は、期間を通じ新型インフルエンザウイルスのみで、季節性インフルエンザウイルスは検出されませんでした。インフルエンザの情報・検体提供にご協力くださり、大変な努力で予防対策や医療を推進されて沈静化にご尽力いただいた関係機関の皆様に厚くお礼申し上げます。

本県の結核罹患率(人口 10 万人対/年)は、2009 年は 16.1 で前年に比べ 0.9 増加し、今後の動向に注意を要します。なお今後、一層、有症者の早期受診を促すため、普及啓発や受診促進のための対策の推進が必要と考えます。

本県の麻しんの届出は、2009 年は 6 人に止まり、前年の 43 人から大幅に減少しました。我が国の 2012 年麻しん排除の目標に向けて、予防接種率の向上、サーベイランスの強化、麻しん届出患者の質の高い検査診断（遺伝子検査）など、麻しん排除に向けて一層のご協力をお願い申し上げます。

本県の 2008/2009 シーズンの感染性胃腸炎の患者報告数は、定点当たり 427 人で、前シーズンより減少し、過去 10 シーズンでは平均的な流行規模でした。病原体としてはノロウイルスに加え、ロタウイルス、サポウイルスなどが多く検出されました。なお一層の予防対策の推進が必要と考えます。

多岐にわたる感染症を監視し、有効かつ的確な感染症対策を推進するため、感染症発生動向を把握し、その結果を感染症情報として地域に公表する重要性をご賢察いただき、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成 22 年 12 月

愛媛県立衛生環境研究所

所長 土井光徳